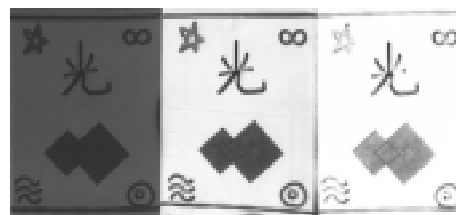


光の性質

3年	日光を当てる時間はどのくらい 場所はどこに置くといいかな
	日光写真に挑戦 発展

日光のが当たったときの「あたたかさ」は温度計ではかりましたが、明るさは目で見て判断しました。ここでは、光の明るさを活動を通して実感させる方法として、日光写真を紹介します。光を当てすぎても、光が少なすぎても、くっきりとした写真は撮れません。光を当てる時間や、日なたや日陰などの場所を選ぶことが必要になります。



日なたで、左から3秒、10秒、45秒

1 準備物

- ・青焼きコピー用感光紙
- ・ラミネーター（熱式）、またはアイロンとアイロン台
- ・厚紙（台紙）
- ・透明シート（OHPシートなど）
- ・油性ペン
- ・輪ゴム2個

感光紙はB5判の場合8等分すると、約9×6.5cmになるので、厚紙、台紙も大きさをそろえる。

小さい感光紙をそのまま入れるとラミネーターにつまりやすいので、B5版の紙を二つ折りにして間に感光紙をはさみ、折り目から挿入する。アイロンがけも紙の間にはさんで行うとよい。

感光紙は、暗い室内での短時間の作業ならほとんど感光しない。

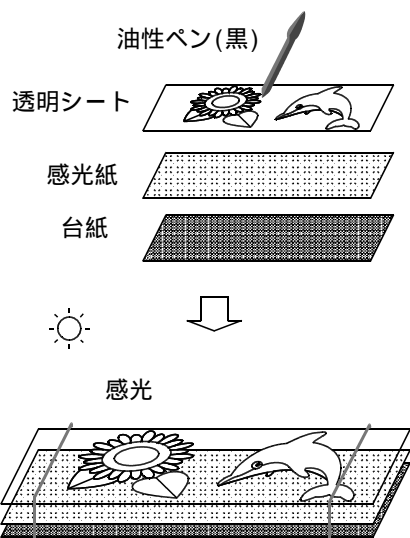
青焼きコピー用感光紙 光を当てると反応し、熱すると光が当たらなかった部分が青く定着する。

・設計建築や土木建設などの分野で使われている、青い線が出てくる複写に使われる紙。

理科教材としても（B5サイズ250枚で¥1,800程度で）市販されている。

2 活動の方法

- (1) 透明シートに好きな絵を油性ペンでかく。
- (2) 感光紙を台紙の上に置き、透明シートを重ね、互いの紙がずれないように輪ゴムでとめる。
- (3) 光に当てて写真を撮る。
- (4) 撮り終わったら光に当てないように注意して、ラミネーターやアイロンで加熱する。



日光しゃしんをとろう！

しゃしん

しゃしん

- ・とった場所
() ()
- ・光を当てた時間
() ()
- ・しゃしん と のうつり方にちがいは()をつける)
かなりちがう 少しちがう あまりかわらない
- ・どうして、ちがいができたと思いますか。

活動シートの例